



絶滅危惧種

# ヒメサユリのすべて

ユリの花は美しく、誰をも魅了します。

しかし、野のユリを庭に植えても、いつしか消えてしまうので、私たち日本人にとって、ユリはとらえどころのない植物でした。日本には十数種の美しいユリの花が自生しますが、私たちの祖先はユリとつかず離れずの付き合いをしてきたようです。

梅雨から初夏にかけて、只見町のあちこちで薄いピンク色の可愛らしいヒメサユリの花を目にすることが出来ます。浅草岳山頂の雪田草原や雪食地形のガレ場、スキー場や茅場の周辺などでヒメサユリを見かけると、優しい気持ちになります。只見町にいとどこでも出会える植物のように思えますが、実は、ヒメサユリの分布は限られています。会津地方、それと隣り合う新潟県の山間部、山形県、宮城県南西端部の豪雪地帯だけです。なぜ、深い雪の中で生きていくのでしょうか？ユリの中でも最もとらえどころのないのは、ヒメサユリかもしれません。

ユリへの理解を深め、私たち人間とユリとの関わりを振り返りながら、ヒメサユリがどんな植物か考えていきましょう。

## 第1章

# ユリとは

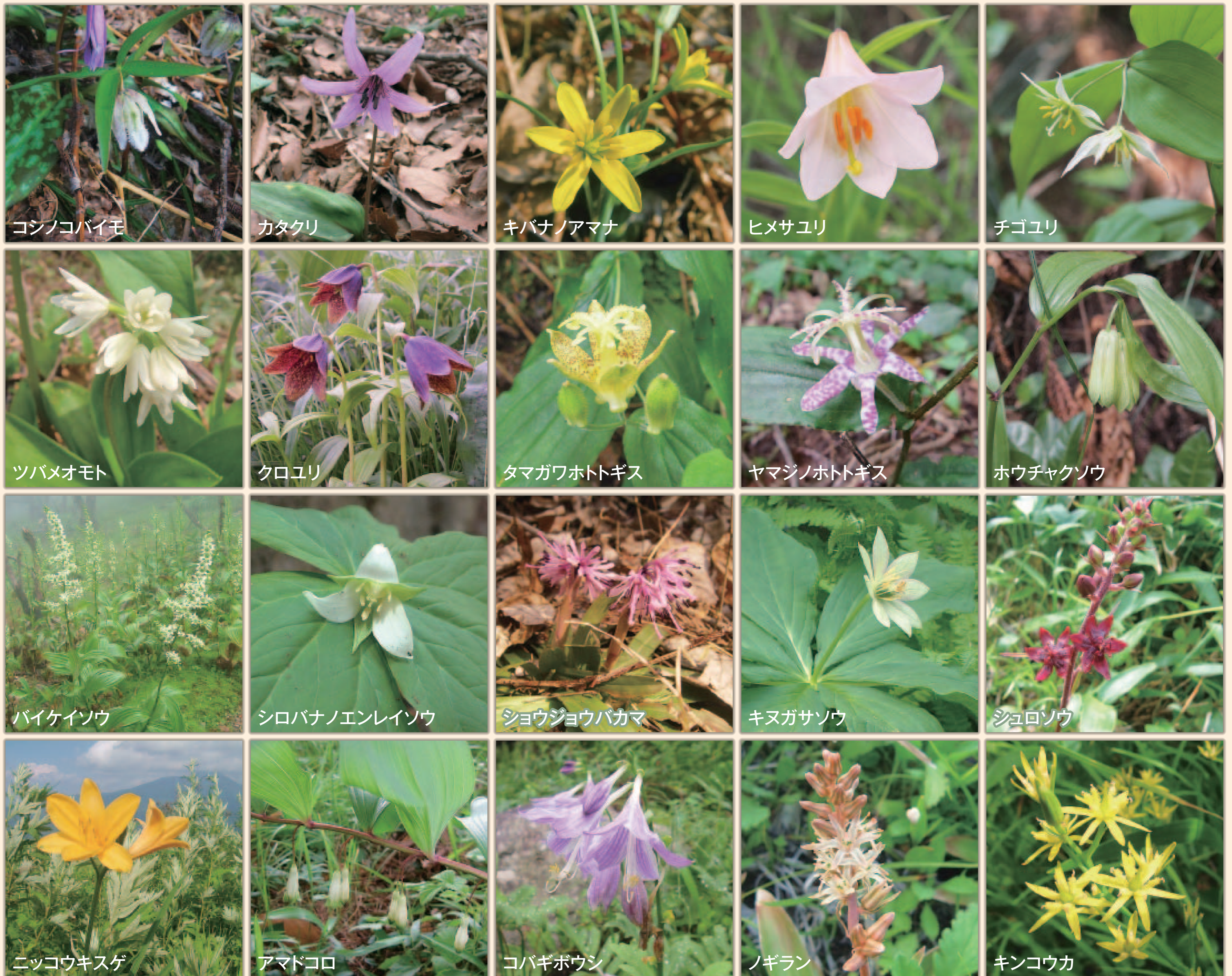
一般に、ユリとはユリ科ユリ属の植物を指します。被子植物単子葉類の中でユリ科は大きなグループをなし、美しい花をつけます。そして、ユリ属は、ユリ科の中でもひととき大きな花をつけます。どんなところに生育し、どんな形態をしているのか、見ていきましょう。ユリ科はかつて、多様な植物を含む大きな科でしたが、最近の分類ではいくつもの科に分けられています。



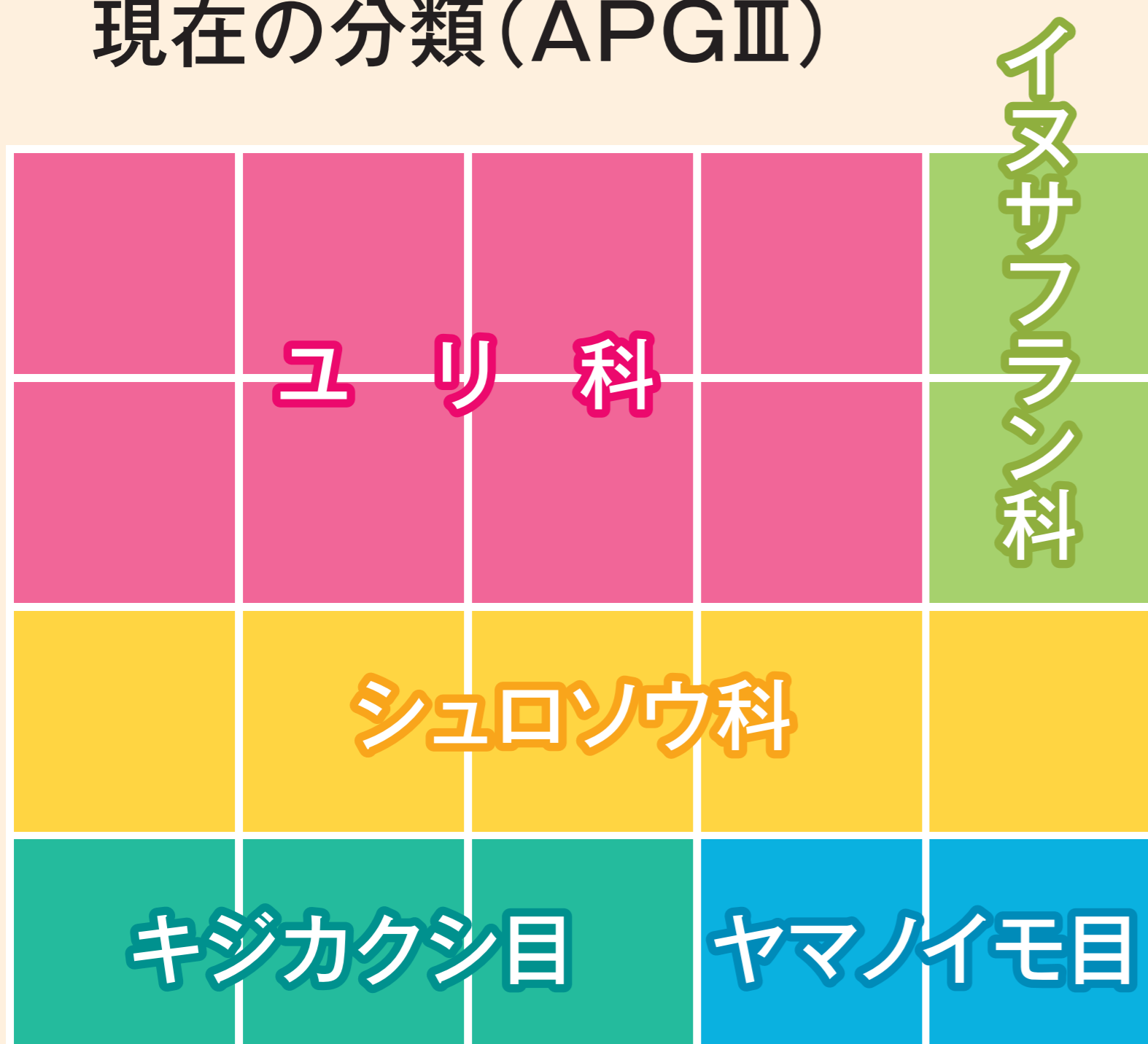
尾瀬ヶ原に咲くコオニユリ

# 変わるユリ科の定義

これまでのユリ科の植物



現在の分類 (APG III)



ユリの名を冠するチゴユリはユリ科ではなく「イヌサフラン科」とされました。ナルコユリ・ギボウシ・ニッコウキスゲはユリ科どころかユリ目※からも追い出され、ランと同じ「キジカクシ目」に分類されています。上に挙げた植物はいずれも、これまでユリ科に分類されていましたが、新しい分類体系でユリ科に残されたものは、これらの写真のうち左図に示したものだけです。

(※「目」とは科・属よりも上位の分類単位です)

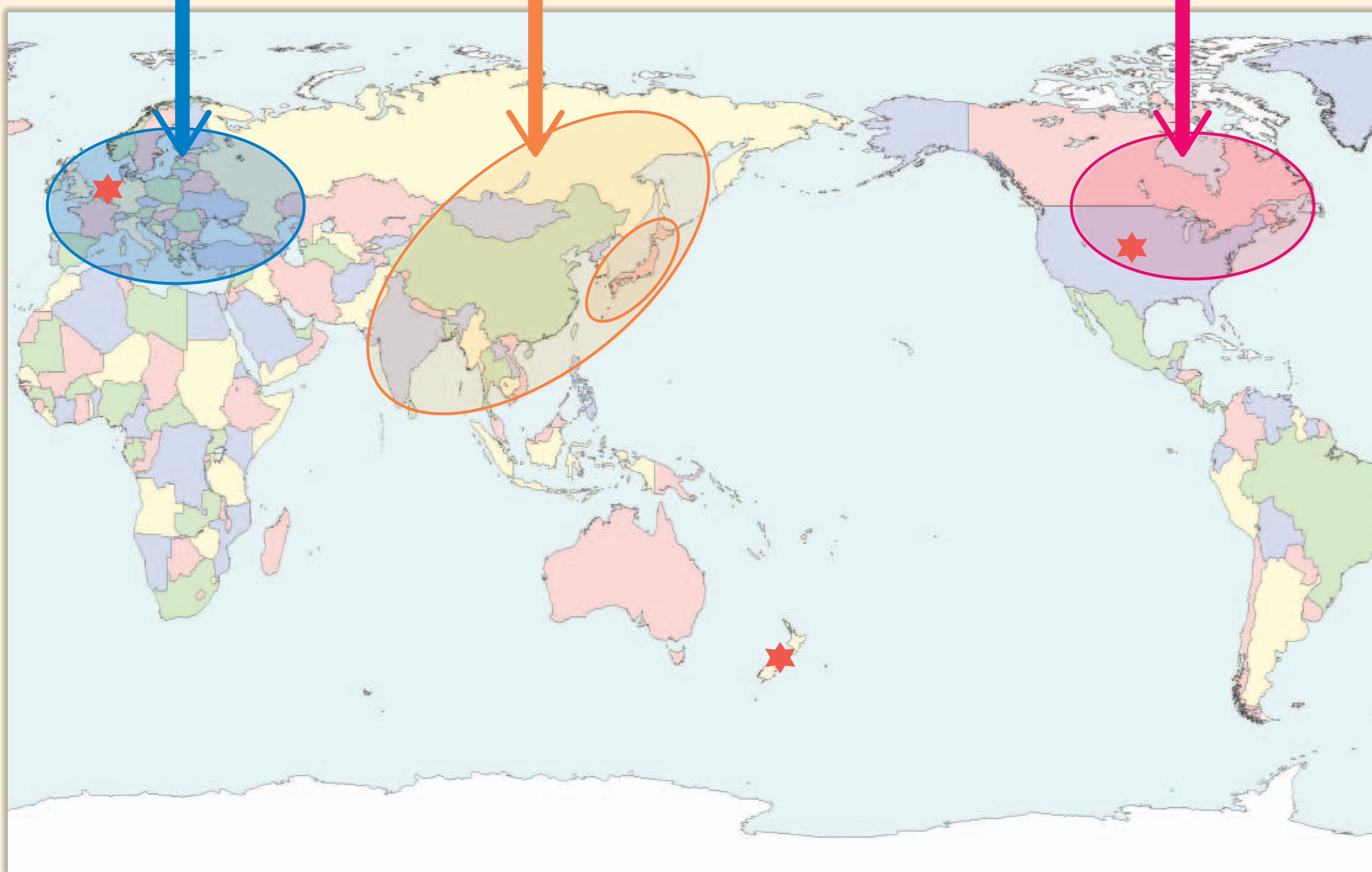
# ユリの世界的な分布

世界では約100種のユリが知られています。そのほとんどが北半球の温帯域に生育しています。なかにはシベリアのような寒冷地に生育するもの、インドなどの赤道付近に生育するものもあります。

ヨーロッパ  
約12種

アジア 約60種  
そのうち日本約15種

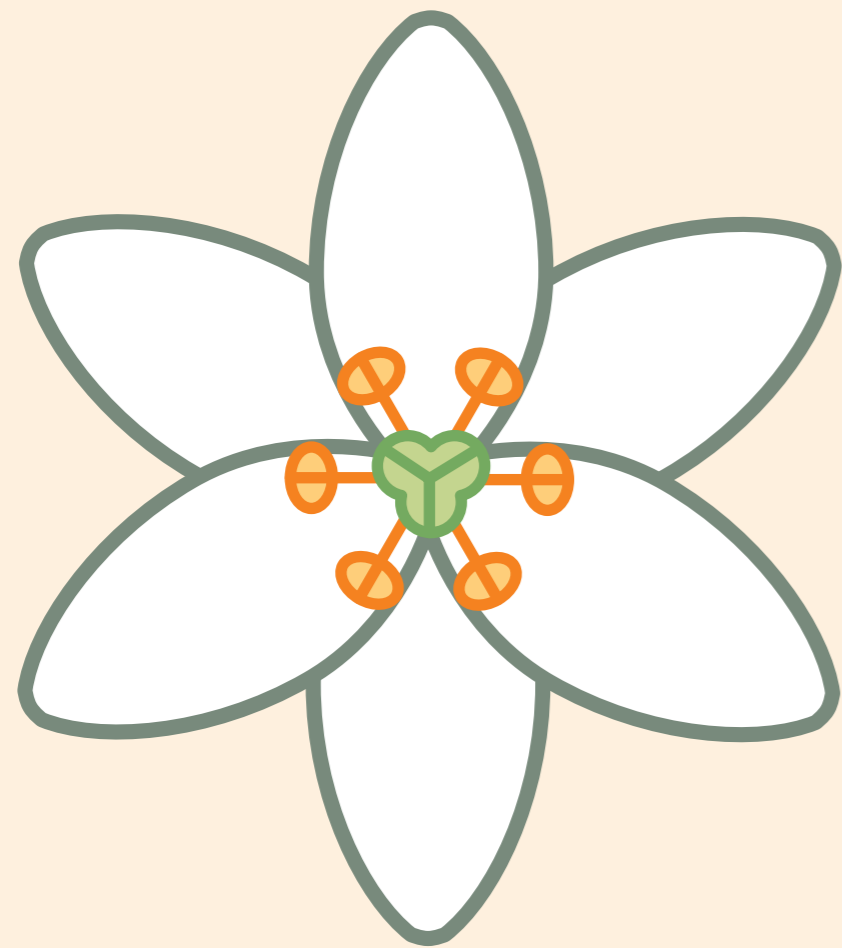
北アメリカ  
約25種



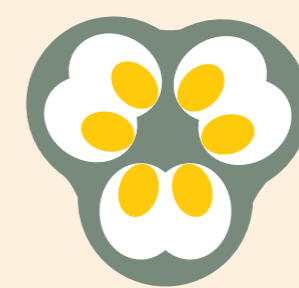
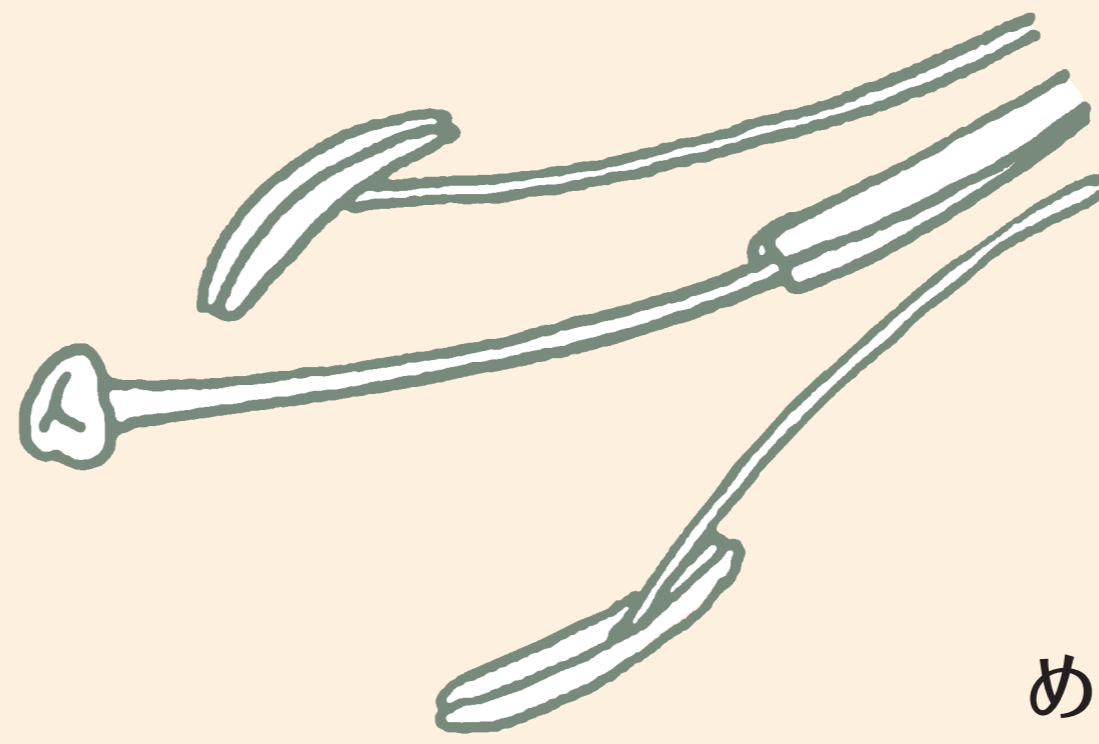
★ ユリの園芸栽培が盛んな国……アメリカ、ニュージーランド、オランダ

# ユリの特徴ってなんだろう

## ① 花の3数性



ユリの花は、6枚の花被片（かひへん）（内花被片3枚 外花被片3枚）、6本のおしべ、1本のめしべで構成されます。



めしべ基部の子房の断面



めしべは先端が3裂しています。また、めしべ基部の子房は内部が3室に分かれています。こうした3を基本とする花の構造は「3数性」といわれ、単子葉植物に共通する特徴です。

## ③ 葉は平行脈



ユキザサの葉



オオバナエンレイソウの葉

葉の葉脈が平行に走る「平行脈」は単子葉植物に広く知られる特徴です。同じユリ科でも、ウバユリやエンレイソウなどは葉脈が網目のようになる「網状脈」となるものもありますが、ユリは例外なく平行脈になります。

オニユリのように葉腋（ようえき）にむかごのできるユリもあります。



出典：「朝日百科 世界の植物」（朝日新聞社）